

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成20年度農作物病虫害発生予察情報について

平成20年度農作物病虫害発生予報第14号を発表したので送付します。

平成20年度農作物病虫害発生予報第14号

平成21年3月27日
徳島県

・果樹

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期：平年並

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 前年夏～秋期における予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数は、平年より多めで推移した。

(2) 1月に実施した果樹カメムシ類の調査(11地点×2ヶ所調査)では2地点で越冬を確認、越冬成虫数は0.23頭/m²であった。昨年(越冬虫を認めず)、一昨年(11地点×2ヶ所の調査では2地点で越冬を確認、越冬成虫数は0.09頭/m²)と比べて越冬密度が高かった。

(3) 3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

・野菜

冬春キュウリ

べと病

1) 予報内容

発生程度：「中」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、発病葉率が22.3%で、ほぼ平年(60.5%、20.0%)並の発生であった。

(2) 3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

- (2)肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行なう。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1)予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、発病葉率が4.3%で、ほぼ平年(54.5%、11.3%)並の発生であった。
- (2)3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率とともに40%、降水量は平年並または少ない確率とともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

1)予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が8.5%、発病果率が1.0%)。
- (2)3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率とともに40%、降水量は平年並または少ない確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20 程度の低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2)朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5)耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が3.5%、寄生葉率が0.05%)。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ミナミキイロアザミウマ

1)予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並～やや多い(前年並～やや多い)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が3.8%で、平年(13.5%、2.1%)よりやや多めの発生であった。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)花器，新葉，葉裏，葉の重なった部分などに集まる習性があるので，それらの部分に薬液が十分かかるよう，丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので，同一系統の薬剤の連用は避ける。

オンシツコナジラミ

1)予報内容

発生程度：「少」，発生量：平年並(前年並)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では，発生圃場率が16.7%，寄生葉率が0.7%で，ほぼ平年(10.0%，0.6%)並の発生であった。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので，薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので，同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1)予報の内容

発生程度：「少」，発生量：平年よりやや少ない(前年より少ない)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が11.1%，発病度が0.6)。
- (2)3月27日発表の1ヶ月予報では，気温は平年並または低い確率ともに40%，降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており，発生に中立的である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)品種は，本病レース1～7に抵抗性があるものを利用する。
- (2)葉が繁茂すると被害が多くなるので，肥培管理に注意する。
- (3)春先の病勢の伸展を抑制するため，薬剤は予防的に用いる。
- (4)薬剤は予防的に，また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5)罹病株を圃場に放置すると，次作の第一次伝染源となるので，発病株は速やかに処分する。また，春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので，速やかに処分する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生程度：「少」，発生量：平年よりやや少ない(前年より少ない)

2)予報の根拠

- (1)3月の巡回調査では発生圃場率が50.0%，発生程度指数が0.5で，平年(62.0%，4.4)より発生程度が低かった。
- (2)3月27日発表の1ヶ月予報では，気温は平年並または低い確率ともに40%，降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており，やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので，薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので，同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1)予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が6.7%、発病果率が0.3%)。
- (2) 3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20 程度の低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が8.7%、発病葉率が0.2%、発病果率が0.5%)。
- (2) 3月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生株率が1.7%で、ほぼ平年(9.3%、1.1%)並の発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年より多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、寄生葉率が17.9%で、平年(35.1%、5.2%)より発生が多かった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

.その他

- 1) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期です。農薬による危害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分して下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。
- 3) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

テレホンサービス：0883(26)1199

URL：http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/

病虫害の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。